

自分探し

2024.5.10

我が家の長男は、イタリアから福島に戻り、私立の幼稚園に入った。そこでは、たくさんの友達ができ、友達の家によく遊びに行っていた。小学校と中学校は別々の学校になっても、高校でまた一緒になる友達もいた。

その中に、我が家がよくお世話になっていた方がいる。先日、その方から連絡がきた。我が家の長男の同級生、いわば幼なじみである息子さんが、教育に関わる仕事をしており、我々の話を聞きたいという。ちょうど、大型連休中であり、我が家の長男も連れて3人で出かけることとなった。

若者同士は、約10年ぶりの再会となった。その息子さんは、現在、秋田県の東成瀬村というところにいる。村おこしに関わるような仕事をしている。この村のことは、私も家人も知っていた。教育関係者にとっては知られた村である。なぜなら、学力が高いことで有名な秋田県の中でも、とりわけ学力が高い村だからである。

その息子さんは、この村に人を呼び込むプロジェクトに関わっている。村の人口は、2500人ほどである。出生数は2人である。移住してもらおうというのが、一つの方策となる。そうになると、学校も大きな要素となる。教育の問題である。村には、小学校が一つ、中学校が一つある。これを生かすことはできないかとなる。

まずは、2泊3日で体験宿泊のようなことをやりたいという。学校も見てもらおう。そこで、どんな人たちをターゲットにするかという問題が出てくる。そのことを相談された。私と家人とで、知っている限りの考えられる範囲で意見を述べさせていただいた。全国には、それぞれの特色を打ち出した学校がいくつもできている。そのような情報もお伝えした。私が勤務した奥会津の学校や教育環境のことも話した。

その息子さんは、生き生きと話し、輝いていた。東成瀬村に来るまでには、いくつかの仕事を経験してきている。まるで、自分探しの旅をしているかのようである。今の仕事にやりがいを見だし、充実した生活を送っている。まぶしい若者である。

我が家の長男も、うれしそうである。きっと、自分とは違う人生だが、大いに参考になったことだろう。やはり、自分とは違う世界を知り、人の話を聞くことは、大切なことである。特に、学校という狭い社会で生きている教員には必要なことだと思われる。

楽しかった幼稚園時代の友人関係が、このような形で続くのは、親としてもうれしい。久しぶりに、長い時間にわたり、たくさんしゃべった。充実した時間だった。私もまだまだ自分探しの途上にあると思いたい。